



『生命の楽園』

生きる

今の日本は一昔前に比べると、障害者等弱者に対して実に理解ある社会になりました。本当にありがたいことです。それでも障害者が生き延びることはいろいろな意味で大変です。

一八歳の時から障害者になり長い年月を暮らしてきましたと、健康な時には思いもよらなかったことをたくさん経験し、学び、気づくようになります。

毎日三食たべられて排便できることのありがたさ。毎日雨風から身を守り、暖のとれる住居で生活できることのありがたさ。人間として好きなことができるありがたさ。地球の重力に逆らって生きることの大変さ。じわじわと身に迫る死の恐怖と辛さ。その他いろいろ。

私たちが生物である以上、宇宙・地球の現実の中で生きていかなければなりません。今があるがたい社会システムが壊れたら、私たちはあつという間に厳しい現実の中に放り出されます。私たち障害者等弱者にとっては辛い現実ですが、どんなにありがたい社会になっても肝に銘じ、忘れてはならないことだと思います。

このことは健常者だって明日は我が身です。

その上で私たちは人としてのモラルをしっかりと持ち、夢や希望を持ち、毎日を精一杯最善を尽くして生きていくことがどれほど大切か痛感しています。



作者：小池誠（こいけ・まこと）

1957年長野県生まれ。18歳のとき骨肉腫になり左足大腿部より切断。20歳で左肺に、28歳で右肺に転移し摘出手術をする。闘病生活後、アート、デザイン、エッセイ執筆等始める。87年第9回ケニア画廊新人展（特別賞受賞）、90年紀伊国屋画廊で個展・96年にも開催、第4回ジェック「ま・な・び・す・と大賞」（優秀賞受賞）、91年第18回日仏現代美術展（テレビ信州賞受賞）、第3回障害者アートバンク大賞（大賞受賞）、93年「善行者」として長野県知事表彰、99年「伝言一刻を超える それぞれの表現」駒ヶ根高原美術館、2007年第7回国際アビリンピック「ポスターデザイン部門」日本代表として出場（特別賞受賞）、「成績優秀技能者」として長野県知事表彰。その他、公募展、グループ展、個展、版画、本・雑誌の表紙使用、エッセイ執筆、受賞等多数。パブリックコレクション：駒ヶ根高原美術館、喬木村歴史民俗資料館ほか。http://mkoike.serio.jp

心の
アート
小池誠